

会 議 録

1 附属機関の会議の名称

水戸市観光審議会

2 開催日時

平成26年6月26日（木） 午後1時30分から午後3時30分まで

3 開催場所

水戸市役所三の丸臨時庁舎 3階 会議室3

4 出席した者の氏名

- (1) 委員 中山 義雄, 三上 靖彦, 田口 文明, 玉造 順一, 大橋 章, 石川 よう子,
石原 栄二, 藤田 好美, 鹿倉 よし江, 久信田 もと子, 仲田 光子,
宮内 久江, 大関 茂, 大関 竜太郎, 高橋 睦美, 小川 啓子,
小松崎 節子, 羽石 英司
- (2) 執行機関 飯村産業経済部長, 白石観光課長, 小川観光課副参事兼課長補佐,
鯉渕観光課企画物産係長, 北井観光課主事
- (3) その他 株式会社常陽産業研究所（水戸市観光基本計画策定業務受託業者）
久保田フェロー, 海老原地域研究部次長, 竹中地域研究部主任調査役

5 議題及び公開・非公開の別

- (1) あいさつ（公開）
- (2) 水戸市観光基本計画（第3次）素案について（公開）
- (3) その他（公開）

6 非公開の理由

7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人

8 会議資料の名称

水戸市観光審議会資料（「水戸市観光基本計画（第3次）素案」），水戸市観光審議会参考資料（「水戸市第6次総合計画に位置付けられている基本施策の概要」），水戸市観光基本計画基礎調査報告書，水戸市観光審議会条例，水戸市観光審議会委員名簿

9 発言の内容

別紙 会議録

平成 26 年度 第 1 回水戸市観光審議会 会議録

執行機関 本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから、平成 26 年度第 1 回水戸市観光審議会を始めさせていただきます。

はじめに_____会長からご挨拶をいただきたいと思います。

会 長 _____挨拶_____

執行機関 ありがとうございます。続きまして、水戸市産業経済部長の_____からご挨拶を申し上げます。

部 長 _____挨拶_____

執行機関 続きまして、当審議会の委員が 1 名変更となっております。水戸市住みよいまちづくり推進協議会の会長の交代に伴いまして、審議会の委員につきましては、前任の_____委員さんに代わりまして、新たに会長に就任されました_____様に委嘱させていただきます。

_____委員さん、恐れ入りますが、自己紹介をよろしく願いいたします。

委 員 _____自己紹介_____

執行機関 それでは、会議に先立ち本日の出席者数を報告させていただきます。審議会委員 20 名のうち 18 名が出席しており、委員の 2 分の 1 以上の出席がありますので、本審議会は成立しております。

さて、本日の審議会は「水戸市附属機関の会議の公開に関する規程」により公開となっております。公開の方法といたしましては、会議の日時・会議録等を市のホームページなどにおいてお知らせをしております。

会議録の作成のため、会議録署名人をお二方、審議会の中で指名させていただきますのでよろしく願いいたします。

それでは議事に入ります。議事の進行につきましては、水戸市観光審議会条例第 6 条第 1 項の規定により、会長に議長をお願いしたいと思います。_____会長よろしく願いいたします。

会 長 それでは、議長を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。審議に入る前に、ただいま執行機関より説明がございました附属機関の会議の公開制度に基づき、会議録署名人 2 名を指名いたします。

_____委員、_____委員、以上 2 名の方を指名いたしますのでよろしく願いいたします。

それでは、審議に入ります。昨年度の 3 月に開催いたしました平成 25 年度第 1 回水戸市観光審議会において皆様からいただきました御意見を踏まえ、事務局におい

て、水戸市観光基本計画（第3次）の素案を取りまとめました。こちらにつきまして、内容を執行機関から説明願います。

執行機関 （資料及び参考資料に沿って「水戸市観光基本計画（第3次）（素案）」及び「水戸市第6次総合計画に位置付けられている基本施策の概要」について説明）

会 長 ありがとうございます。さて、執行機関から資料全体につきまして、説明をいただいたところでございます。今回の審議は、全体のうちの計画概要や現状、そして、それを受けた計画の骨格までということです。まず、1ページ計画の策定についてから22ページ課題までの内容については、すでに市において方針の決定がされているものであったり、調査結果等の事実の評価の部分に当たります。このことにつきまして、何かご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

————— 発言なし —————

会 長 22ページまでについては、特段の意見はないということでございますので、共通認識がされたということで、次に議事を進めさせていただきたいと思っております。それは続きまして、23ページの計画策定の基本的姿勢と水戸市の観光が目指す将来イメージについてでございますが、それ以降や参考資料に関わる部分も含めまして、様々なご意見・ご提案等をいただければと思います。

委 員 「水戸の梅まつり梅酒大会」に運営スタッフとして参加したが、女性用トイレの多くが和式になっている。これを洋式にしたら良いのではないかと。車いす・ベビーカーの移動をやすくすること、赤ちゃんのおむつを替えられる場所を設置することなどが必要だと感じた。

会 長 会場周辺の偕楽園に入った東門のところの「見晴亭」や、さらにその奥のトイレには、洋式のトイレや身障者用トイレがあるが、認知されていないのではないかと。

委 員 市議会の本会議や産業水道委員会でも観光振興については、多く議論されている。それらのテーマも踏まえ、私からは3つの要望をしたい。1つ目は、参考資料4ページにある「(1) 回遊できる観光地づくり」についてである。アンケート結果では6割近くの観光客は自家用車で水戸にいらっしゃるとのことであったが、残り約4割の観光客が自家用車ではなく鉄道やレンタカーなどの公共交通等の交通手段で訪れている。資料17ページに記載されている観光資源の上位3つを見ても、偕楽園、弘道館、水戸芸術館、あるいは千波湖、これらは、徒歩で行くにしても、それぞれ、2～3km距離があるし、バス路線からもちょっと距離が離れている。これらの人が偕楽園、弘道館、水戸芸術館などの観光資源を回遊できるようにレンタサイクルの拡充やペロタクシーの導入を検討するとよい。水戸市内でも、水戸観光協会が水戸駅南口でレンタサイクル事業を行っており、最近では、市内でも水戸観光協会のマークを付けたレンタサイクルを見かけるようになったが、つくば市では、無人の自転車管理システムを活用した乗り捨て型のレンタサイクル事業を行っており、世

界から視察が来て、注目されている。そこでは、例えば、水戸であれば、偕楽園、弘道館、水戸芸術館、水戸駅北口などの複数の場所にレンタサイクルが設置されており、ホテルなどの貸出場所と異なる場所への返却（乗捨て）が可能である。シルバー人材センターの方が元の場所に戻している。利用者にとって、また生活者にとって使い勝手の良い仕組みが求められる。自転車の活用については、市議会でも多く出されている意見であるので、観光と同時に市民の生活にも利用できるような施策の充実に努めていただきたい。

2つめは、参考資料5ページにある観光産業の強化・育成についてである。水戸駅構内や、「エクセル」、「エクセルみなみ」でお土産が販売されているが、他都市のお土産屋さんに比べて、営業時間が短い。前の日に仕事をして、翌朝早くに東京へ帰る出張ビジネスマンが利用できる時間帯に営業しておらず営業時間を拡大してもらいたい。例えば、「エクセルみなみ」のお土産屋の売り場が一番早く開くが、朝の9時から夜の9時までとのことで、夜は十分かと思うが、朝早く帰るかたにとっては、少し開店が遅い。また、水戸ならではの駅弁を食べたいという話もよく聞く。夜7時には、駅弁屋さんは閉まってしまっている。そういったことも要望があった。

3つめは、行政視察の受け入れを拡大するということである。河和田の福祉施設や芸術館など全国から視察者が訪れるような施設の紹介（視察受入）を、資料代などの費用を相手方からとって、行うとよい。

会 長 河和田の福祉施設とはどんな施設か。

委 員 全国でも珍しい公設民営の福祉施設である。水戸市が設置を行い、社会福祉事業団が運営を行っている。行政が設置している福祉施設としては、全国的にみて、あまり例がない。先進的な取り組みである。

執行機関 今回のご提案は、第2回審議会で議論する個別施策の資料に反映させることで調整してまいりたい。

委 員 計画期間が2015年度から2023年度とあるが、この期間中（2019年）に茨城県で国体が開催される。水戸も何種目かの会場となる。全国から多くの人が集まるので、国体を見据えた施策も盛り込んでいくべきではないか。水戸市をPRする絶好の機会と考える。大いにPRしていただきたい。

執行機関 国民体育大会の開催については、総合計画の中で「スポーツ・レクリエーション活動の推進」に位置付けられている。観光とも関連する話なので、今回は持ち帰らせていただいて、本計画に盛り込む方向で担当課と調整したい。

委 員 現在、水戸駅改札内店舗の再配置を計画之中である。誘導をスムーズに行けるように検討している。土産品販売の営業時間延長についても持ち帰らせていただいて、社内関係部署と調整の上で検討したい。また、来年春には常磐線が東京駅あるいは品川駅とつながる予定である。開通後には、横浜方面から水戸方面へ誘客するキャンペーンを考えているので委員の皆様にはご協力いただきたい。

委員 基本計画素案 16 ページにある「観光資源の向上のために必要だと思うこと」で最も多いのは「わかりやすい案内地図・標識の整備」と「歴史的な街並みづくり」である。案内地図や標識の整備はそれほど難しいことではなく、お金をかけずにすぐに対応ができる。「歴史的な街並みづくり」はすぐできないが、計画をつくるだけでは意味がなく、わかりやすい案内地図づくりなどの、要望も高く、実施も困難でないところから着手していくことが重要だと思う。

執行機関 執行機関においても、計画策定が最終目的ではなく、よりよい観光地をつくり、観光客をたくさん誘致することが目的であるので、やれることから始めよう、という意識のもとで取り組んでいきたいと考えております。

委員 他市町村の観光基本計画を見ると、「既存有形財産の整備・認知度の向上」、「無形財産の魅力向上（ブランド化・地産地消）」、「郷土愛の醸成」の3本が柱になっているのが全国的な傾向である。基本計画の柱はそれで良いかと思うが、基本施策の中で、水戸市として、他市町村と差別化を図れる特色を持った幹となる施策を入れる予定はあるのか。

執行機関 本審議会において、具体的な施策も含めて、皆様からの御意見をいただいて、積極的に盛り込んでいきたいと考えている。

委員 水戸青年会議所では、水戸観光協会の御協力のもと、「夜・梅・祭」を開催している。今年3月で9回目の開催となった。8回目までは、県外の観光客をより多く呼ぼうということで、一泊型観光都市の実現ということで「夜・梅・祭」を遂行してきた。6回目から8回目までは、20,000人程度の来場者で停滞しまっていた。過去の開催を検証し、9目を迎えた今年3月の開催では、水戸市民により多く、この事業に携わってもらおうと発想を転換し、47,000人の来場者があり、例年の倍以上に伸びた。その背景には多くの市民ボランティアに携わってもらったことがある。事業費も、市民からの協賛を募ることにより、県内の様々な企業にも御協力いただき、当初の150万円から600万円に増えた。水戸に多くの人に来てもらうためには、単発のイベント開催ではなく、継続的なサービス・おもてなしの提供が必要になる。ボランティア数を増やす施策を盛り込んでもらいたい。市民の方が、どうやったら楽しみながらボランティアをやっていただけるか。そういった視点はほかの地域にはまだ少ないと思う。2016年の「夜・梅・祭」には、ボランティア参加1万人を目指しており、そうした住民が楽しめるような事業を増やしていくことが重要である。

委員 観光は、読んで字のごとく「^み光を観る」ことである。元気がなくつまらない・光のない街には人は集まらない。観光振興の主役は市民である。郷土愛の精神を持って、有形・無形の財産が私たちの暮らしの近くにあることを知ってもらわなくてはならない。ヨーロッパの街で市民がカフェの外でお茶を飲んでいるのが魅力的に映るのは、その土地の人が光っているからである。おもてなしが悪いと言われるのも、

郷土愛が足りなさ過ぎるからであり、どんな仕掛けをしても、地元の人が観光に無関心で地域のことを勉強したり、地域に誇りを持って語ったりしないのであれば、街は光らない。3つの基本戦略のうち、「訪れてみたいと思える観光まちづくり」「また来たいと思える観光まちづくり」は、観光客目線である。市民が主役となる柱を立てればおもてなしは自然に出るようになる。水戸市第6次総合計画にある「魁のまちづくり」における「観光集客力アップ」というのも、市民が主体とならなければ実現しない。市民が地元に興味を持っていれば、おもてなしは自然に出てくる。市民が奮い立つような方向性や戦略を示していただいた方がもっと頑張りやすいのではないか。

委員 市外向けの施策とともに市民に目を向けた施策も充実させたい。今までの観光行政は、年に1回、月に1回しか来ないような県外の方に目を向け過ぎなのではないか。27万人の市民をとおして、多くの人を呼び込もうという視点を大切にしているかどうか。

執行機関 _____委員の発言はごもっともであるので、県外へ目を向けるのをやめるわけではないが、市内にも目を向けていきたいと考えている。水戸市で活動されているボランティアがご高齢になってきていることもあり、水戸青年会議所の皆様には、ぜひ新しいボランティアの中核となっただき、ボランティアの育成などにも御尽力いただきたいと思う。

委員 梅まつりの時期に観光案内をしているが、弘道館は偕楽園ほど興味関心を持たれていないように感じた。本来、弘道館と偕楽園は一对であり、梅まつりの時期以外の観光誘客のためにも、両資源をセットに案内したパンフレットがあるとよい。一对にして両方ご覧くださいという姿勢が必要。それには物語性が必要である。偕楽園と弘道館をセットで組み合わせれば、通年型の観光資源になるのではないかと思う。弘道館は、水戸城の一角であるし、最後の将軍・慶喜公が幼少のころ、歩いて弘道館に通ったというような逸話もあるので、偕楽園と弘道館をセットにして、偕楽園にきた観光客が、弘道館、さらに水戸市内の観光施設を周遊できるようなしくみをつくとよい。偕楽園と弘道館、それに水戸城エリア（二の丸展示館や薬医門）がつながれば年間人を呼べるようになる。似たような近隣の関連施設を繋げ、水戸市内に複数の周遊エリアを作ってはどうか。

委員 弘道館には、お城めぐりでスタンプを集めに来る方が多いが、お城の痕跡があまり無いので、紹介しても満足して帰っていただけない。大手門の復元など弘道館・水戸城跡周辺の歴史まちづくりが進められているが、観光目的で行われているのか、それとも教育目的で行われているのか。水戸二中の横にある資料館は教育施設として整備されたためか、トイレも駐車場もない。ボランティアも重要であるが、行政がやるべきそういった調整をしっかりとやらしてもらわないことには、これではきれいな景観ができて観光客は楽しめない。資料館についても、今後、様々提案していきたい。

委員 偕楽園や弘道館には車やバスで訪れる観光客がいる。そこから二の丸や薬医門，義公生誕の地，水戸東照宮までは歩いて楽しめる距離にあるのに，訪れる人は少ない。そこ一体を歩いて楽しむようなPR施策も追加していただきたい。

執行機関 弘道館・水戸城跡周辺の三の丸地区の歴史ロード整備は，対外的には教育・文化を目的としているが，今後，教育委員会と連携・協力し，観光目線での取り組みも取り入れるよう検討したい。今後の白壁の整備等，新しい状況については，後日，報告させていただく。

会長 復元が計画されている大手門や杉山御門はどの場所に整備する予定なのか。

執行機関 水戸城施設の復元はその場所も含めて構想はあるものの現段階では確定していない。正式に決まったらお伝えしたい。

委員 県内市町村の観光入込客数をみると，水戸市は，近隣市町村では大洗町，笠間市に次いで3番目。県全体では，大洗町，阿見町，笠間市，つくば市に次いで5番目である。月別にみると，観梅の時期の3・4月，黄門まつりがある8月の入込が多い。黄門まつりよりも梅まつりの方が多いのかと思っていたが逆であった。大洗町の海水浴やゴールデンウィークの集客，笠間市の稲荷神社・菊まつり・陶炎祭，ひたちなか市のロックフェス・阿字ヶ浦海水浴場・ひたち海浜公園など，それぞれ，知名度は偕楽園とそれ程変わらないのに，偕楽園よりもずっと多くの入込客数を稼いでいる。水戸市は，通年型の観光施設を目指すには，黄門まつりを除くと200万人を割るような非常にお粗末な数字であるので，心して通年型観光に取り組む必要がある。先ほど，水戸城址周辺の街並みの話題が出たが，大工町の金魚坂から偕楽園の表門までの通りが道路整備により，非常にきれいになった。さらに，(民地であるので難しいのは承知の上だが，)元山町のあたりの表門までの民家の塀だけでも整備してもらいたい。金沢の武家屋敷街のような風格のある景観をつくりだしてもらいたい。お答えは要りませんが，参考に見てみてください。

会長 ゴールデンウィークの集客については，水戸市長からも，笠間市，大洗町に負けているという話をいただいている。そこをいかに挽回するかということも，一つの課題であると思われる。

執行機関 執行機関としても，この春のゴールデンウィークの時期の集客について，どのようにすれば挽回できるかというような委員の皆様からの積極的な御提案，御意見をお伺いしたい。

委員 水戸黄門まつりの時期は，ひたちなか市のロックフェスティバルと同時期であることもあり，宿泊施設は満杯になる。通年で観光客数を増やすためには，来たことがない人を新たに呼び込むより，今来てくれている人の違う時期の訪問回数を増やすことが重要である。そのためには，地元の人やボランティアが梅まつりの時期や黄門まつりの時期に，偕楽園や弘道館以外の水戸の魅力をきちんと伝えなくてはな

らない。点在している観光施設を線にして歩きやすくすることも重要である。そのためには、我々水戸に住んでいる人たちが、地元の観光資源について、熟知していくということから始めるべきなのではないかと感じる。

会 長 せっかくの機会ですので、まだ発言をいただいていない委員の皆様も、どうぞ発言をお願いいたします。

委 員 _____委員のおっしゃる通り、子どもたちから年配の方まで含めて、市民のおもてなし力向上は重要である。そこで、市民向けのおもてなし講座を開催して欲しい。水戸学や弘道館の伝統を引き継ぐ人材育成の街として、水戸学や水戸の歴史に詳しい素晴らしい先生はたくさんいるので、先生方には交渉してボランティアをお願いして、全3回くらいで市民に募っていくと良い。また、子ども向けの教育プログラムも重要であり、水戸学や地域の歴史・文化を月に1時間でもいいから子どものうちから学ばせてほしい。それによって、将来、自ら誇れ、他県にもPRできる人材が育っていくと考える。

 笠間市に笠間ファンクラブという制度がある。非常に安い年会費で、笠間のファンを増やしていくという試みで、同様のものが水戸でもそれほどお金をかけずにできると思う。水戸の街のファンづくりをして、スタンプラリーなどで施設割引券などの特典を付けると良いと思う。

 インバウンドということでは、「いばらき旅のストーリー」という県内各地でリーズナブルな価格でワークショップをやったり体験プログラムを組んで紹介したりしている企画がある。これの水戸版をコンパクトに展開していけば良いと思う。七ツ洞公園、植物公園など水戸の自然豊かな資源をうまく活用できると感じる。

 最後に三の丸地区の整備について、茨城県の産業基盤部会でも議論をしているところであるが、やはり水戸城を再建したいと考える。できれば東京オリンピックの2020年までに三階櫓を復元する。1億2千万円くらいで再建できるのではないかと。300円くらいの入館料を取って、復元すると良い。海外向けのPRでも、県外向けのPRでも、やはり城があるのと無いのでは違うと思う。水戸城を起点とした弘道館や偕楽園を含めた回遊性に向けても光るものがあるのではないかと。観光客からもそれを期待されている。

執行機関 おもてなしの人材育成については、今年度から取り組んでいく方向で関係団体と調整中であるので、発表までもうしばらくお待ちいただきたい。二つ目のファンクラブと旅のストーリーの水戸版については、基本計画の個別事業として位置付けていけるよう検討していきたい。三つ目の水戸城の話は、文化課がメインとなるかと思われるが、お金の話や関係課の話もあるので、持ち帰って検討したい。

委 員 水戸ファンクラブとおっしゃっていたものは、水戸黄門倶楽部とは別なのか？

執行機関 水戸黄門倶楽部という観光ボランティアの組織がある。水戸市の観光課や水戸観光協会が行うイベントにお手伝いいただいている組織であるが、_____委員のご提案はこれをもっとグレードアップした組織のイメージだと思われる。中身について

は、今後、詰めていきたいと思います。

委員 最近、「光圀伝」「恋歌」と立て続けに水戸を舞台とした小説が話題になった。私はこれを読んで、小石川後樂園も実際に歩いてきて、多くのことを学んだ。小さい頃から水戸に長く住んでいるのに、全く水戸の歴史に関する教育がなされてなかったことが恥ずかしいとも感じた。地域の歴史・文化は、寺子屋のようなシステムで、もっと子供の頃から学んでおくべきだと感じた。

これからの事業はソフトが大事だとはいえ、やはりある程度のハードが必要だと感じる。予算の面もあるかと思うが、やはり、水戸で言えば水戸城があると全く違う。私たちもいろいろな街を訪れる時、まず最初にお城に行くということが結構多い。また、東京から水戸へ来た人が弘道館に行ったあと、交通手段が無いため、偕楽園に行きにくい。東京から来る人を引っ張ってくる窓口が必要と思われる。水戸は東北だと思われている。水戸には、水戸徳川家や葵の御紋という金看板があるにも関わらず、お城が無いのがもったいない。

会長 熊本城は、お金を出したスポンサーには、藩主や老中といった肩書を認定する制度があり、私も老中役になっている。一時、ニュースなどでも話題になった。

委員 私も、檀家になっているお寺から、最近、高額の寄付のお願いが来て、ショックを受けたところであるが、水戸市内にも、少し資金的にも余裕がある方はいるだろうから、お城ということであれば、御協力はもらえるのではないかと。まずは、「お城」だと思う。

委員 水戸に住んで40年になるが、観光については全く前進していないように感じる。水戸の観光は見せ方が乱暴と感じる。はじめて水戸へ来た人がどこをどう行けば良いのか全くわからない。何をどう見せたいのか全く分からない状況である。水戸はターゲットを絞り込んでいないので、何もできていないように感じる。まずはターゲットを絞り込むことが大切。笠間では、年がら年中、いつもイベントをやっている。最近は行方市もイベントを積極展開している。行方市は小さな場所で大きなイベントを仕掛けてきている。しかし、水戸ではイベントを仕掛ける前に、ポイントが抑えられていない。パンフレットひとつとっても不親切である。もし、自分が観光客だったらという視点に立つと、いっぱいパンフレットをもらっても見きれない。どうしてコンパクトで分かりやすいものにしないのか。親切過ぎるのもおせっかいになるので、問題ではあり、ヨーロッパのように何気なく市民がお茶を飲んでいるような、何もやらないことも親切の一つとは思いますが、やらなさ過ぎてはいけない。その辺のさじ加減の基準も水戸市は持っていない。そこから決めていくことが必要ではないか。

笠間市で「笠間の偉人」という本を出した。「水戸の偉人」というような本があっても良いかと思う。例えば土浦亀城という水戸出身の建築家の話はほとんど知られていない。弘道館脇の鹿島神社は40年前の伊勢神宮の旧殿一式を譲り受けたものなのに誰もありがたがらないというのは、宝の持ち腐れである。行政がターゲットを絞り込めていないということと、見せ方を誤っていることの証ではないか。もう少し

し謙虚になってやり直しをしてもらいたい。

委員

茨城県の魅力度はいつも最下位に近い。乱暴な言い方をすると、その縮図が水戸なのではないかと考えている。茨城には海のもの、山のもの、農産物、港、空港など、いろいろありすぎて、ありがたみが自分たちで分からないのではないか。水戸城があればあった方が良くもしいないが、まずは、元々あるものを見直して生かすということが必要になってくるのかと思う。一番良い例が、偕楽園が今まで昼間しか人が来なかったのが、ライトアップしたら、夜たくさん人が来るようになったという話である。そういった、当たり前前に思っているけれども、誰かが始めないと気付かないような、発想の転換が必要。宿泊客の増加は長年の課題であり、そう簡単に克服することはできないかもしれないが、地道な取り組みでも続けるべきだと思う。

委員

水戸のスターは偕楽園である。偕楽園に年代別にテーマを持って楽しめるように、お迎え出来るようになると良い。様々な場所でイベントが開催されているが、イベントは誰のために情報を発信していくのか、ターゲットを明確にした方が良い。イベントがどの程度の人に影響を与えているのかも検討していくと良いのではないと思う。

常陽産業研究所 常陽産業研究所の_____です。今回、水戸市観光基本計画の策定業務を社としてお請けした代表者として一言申し上げます。前回の計画策定時(約10年前)には観光審議会の委員として参加したが、今回は受託者という立場で関わっている。まさに、今御指摘されたようなことを、私も当時は厳しめに言ったことを覚えている。大事なことを一つ申し上げたいが、皆さんから出た意見は、約10年前の観光審議会でも同じような意見が出ており、みんな認識は一緒かと思う。ただし、観光振興は行政の仕事ではなく、市民が主体となって行うべきものであるということ。自ら行動していくことが重要で一人一人が水戸の観光をどうやって磨き上げていくかを考えることが大事である。皆さんが今日発言されたことは、皆さん自身がまず行動して欲しい。そこで、回りの市民の方、知人、市内・市外・県外に住んでいる方などに働きかけをしていただきたい。一人一人が水戸のまちを愛して情報発信していくということが非常に大事かと思う。今回の本業務の受託にあたって、「水戸観光応援団」というソーシャル・ネットワーク・サービス「フェイスブック」内のグループページを水戸市長と一緒に作っているの、「フェイスブック」をやられている委員の皆様も参加し、それを活用しながら、(水戸の情報発信を行う)友達の環を広げていただきたいと思う。

委員

旅行者のツアーを呼び込むのに際して、いまや普通の観光では誰も来ない。イベントや体験の要素が必要である。お客さんからも常に求められている。水戸青年会議所の「夜・梅・祭」のような大きなイベントをやるには、ものすごく労力がかかる。しかし、そうした核となる部分をしっかりと発信していくことが重要である。最初から幅広くやろうとするのではなく、そうした取り組みを1つでも2つでも増やして自信を持てるようにして、予算も、そのような核となるイベントに注力して、

県内でも有数のイベントに育てていくことが必要である。それによって、私たちも旅行商品を作りやすくなる。

委員 黄門まつりのとき、駅の改札前で案内のボランティアをしているが、駅前やコンコースでバックミュージックとして「黄門ばやし」や「ごきげん水戸さん」などを流してもらえないか。何もないとまつりの雰囲気が出ない。多くの観光客が来訪するので、雰囲気も盛り上がるはず。

委員 ホームでは流しているが、改札のところでは流していない。改札口付近はお客様向けのアナウンスをする必要があるので難しい。先ほどお話した改札内の改装の中で、待合室を作る計画があるので、そこで流すなどの対応はありうる。

委員 あの場所だけがおまつりらしさが無いのは寂しいので、なんとか検討いただきたい。

委員 笠間市では、発車ベルで坂本九さんの音楽を流しているのですが、水戸駅でも発車や到着のときに、水戸黄門の「あゝ人生に涙あり」などのBGMを流すと良いのではないかと。

委員 ファンクラブも良いが、既存のコミュニティもある。新しい事業を立ち上げるのも良いが、誰が継続してくれるかが問題となる。

最近、学生と意見交換した際に光の空間を3Dで作るといった話があった。例えば、本物の水戸城を再建しても、結局は大阪城には勝てない。ならば天下の魁として、3D映像で水戸城を復元したらどうかというような意見が出て、我々も勉強になった。行政の役割は、こういった、アイデアや既存で行われている事業を集約することではないか。こうした核となるものには行政の支援が必要だと思うが、コンペを行って核となるものを決めて全力で支援するような取り組みが求められる。細かい事業を行政側で決めて、あとは市民にお願いしたい、という話ではなかなか進まないと感じている。ボランティアがやる気を出すためには、まずは自分たちでアイデアをたくさん出してもらって、それを集約して、盛り上げていくような形が良いのではないかと。

委員 食については、観光客は、皆、その地元それぞれのこだわりのものを食べたいと思っている。水戸には、様々な料理があるが、黄門料理と水戸藩らーめんがPRの割に、いま一つ浸透しておらず、もったいないと感じている。視点や角度を変えて、みんなが楽しんで食べられるようなアイデアを、皆様から出していただいて、計画にも盛り込んでいくと良いのではないかと。

委員 水戸で何かおいしいものと言われても、なかなか難しい。宇都宮であれば餃子がある。どこであったか忘れたが、「焼きカレー」といったものをボランティアで盛り上げている地域もある。水戸でも手軽に食べられるものを募集して盛り上げていくことが大切である。

委 員 スタミナラーメンはどうか。

委 員 水戸商工会議所でも、時々、納豆を使った料理を募集しているが、周知がうまく
いっていない。

委 員 ねばり丼もおいしい。

会 長 最後に、_____副会長にまとめの意味も含めまして発言をお願いいたします。

副会長 本日は、大きな方向性および個別事業について幅広く意見をいただいた。言い足
りなかった部分やアイデアがあれば、7月4日までに事務局に伝えていただきたい
い。

23ページ以降の基本的方向に関わる部分については、会長、副会長及び事務局
に一任していただいて、次回までに整理させていただくということではいかげん
うか。

会 長 それでは、予定していた時間もまいりましたので、今、副会長からも話がありま
したように、もし、本日言い足りなかったことがございましたら、後日お送りする
様式に記入いただき、7月4日、金曜日までに、郵送、Eメール、FAX等により
事務局あてご提出いただければと思います。続きまして、その他ということでござ
いりますが、事務局から何かございますか。

執行機関 本日は慎重な審議をありがとうございました。今、会長からお話がありましたよ
うに、言い足りなかったことがありましたら、7月4日までに、Eメール、ファッ
クス、郵送で事務局まで連絡していただきたい。

次回の審議会は8月7日、木曜日、午後1時30分から旧県庁舎（県三の丸庁舎）
3階の会議室Aにて開催する予定である。正式な案内は後日お届けする。

会 長 以上をもちまして、時間もまわりましたので、平成26年度第1回水戸市観光審議
会を終了とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございました。

執行機関 以上をもちまして、平成26年度第1回水戸市観光審議会を閉会とさせていただきます。
ありがとうございます。